

設備能力を2倍超アップ

環境テクシス

液体飼料化事業の強化へ

食品残さの肥飼料化事業を展開する環境テクシス(愛知県豊川市、高橋慶社長、☎0533・87・5512)は、新たに破砕機を導入するなどして液体飼料(キッドフィード)化設備の処理能力を2倍以上にアップさせた。新破砕機は、ご飯やうどんなど粘りの強いものにも対応。今後、原料の受け入れ幅を拡

大して、液体飼料化事業の強化を図る。今回の増設は、愛知県の「地域ゼロエミッション関係施設等整備事業」の採択を受けたことによる。資源の有効利用と環境負荷軽減が見込まれる一連のシステム・施設を補助するためのもので、同社は農協や養豚農家2軒と構築する食品リサイクルシステムの再生利

用事業者として参加。同社の増設費1100万円のうち、約半分を補助金で賄った。処理能力は、従来の1日当たり約25トから同55トまで引き上げた。2種類の破砕機と発酵タンクで構成され、原料となる野菜くず等を水分調整したうえで破砕・攪拌、焼酎廃液などに混ぜ込んで発酵を進める仕組み

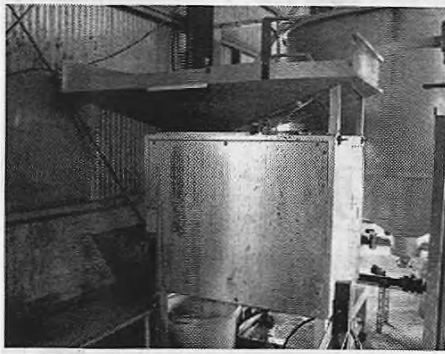
だ。能力アップにより、「より効率的に作業を進められるようになった」という。

飼料化用としては現在、食品工場からの野菜くずやジャガイモの皮、シロップシュース、菓子類などを1日当たり約7ト受け入れ、各性状に応じて液体飼料

と乾燥飼料に作り分けている。供給先である養豚農家数が増えて液体飼料のニーズが高まっていることから、当面は液体飼料化用を中心に、同10トの受け入れを目指す。

高橋社長は、「ボイラントは、費用を最小限に抑えて機械の処理能力を倍以上に引き上げたこと。新設した破砕機については、メーカーと相談しながら改良を重ね、異物が混入しても壊れにくいものに仕上げた。今後は産廃業者などに向け、機械自体の販売も手掛けた」と意気込む。

同社の強みは、食品リサイクルに対する豊富な知識と技術力。2007年の創業以来、食品残さ・有機汚泥の肥料化に始まり、飼料化やコンサル業務、飼料分析など、順調に事業の幅を広げている。



食品残さの肥飼料化事業を展開する環境テクシス(愛知県豊川市、高橋慶社長、☎0533・87・5512)は、新たに破砕機を導入するなどして液体飼料(キッドフィード)化設備の処理能力を2倍以上にアップさせた。新破砕機は、ご飯やうどんなど粘りの強いものにも対応。今後、原料の受け入れ幅を拡

大して、液体飼料化事業の強化を図る。今回の増設は、愛知県の「地域ゼロエミッション関係施設等整備事業」の採択を受けたことによる。資源の有効利用と環境負荷軽減が見込まれる一連のシステム・施設を補助するためのもので、同社は農協や養豚農家2軒と構築する食品リサイクルシステム

の再生利用事業者として参加。同社の増設費1100万円のうち、約半分を補助金で賄った。処理能力は、従来の1日当たり約25トから同55トまで引き上げた。2種類の破砕機と発酵タンクで構成され、原料となる野菜くず等を水分調整したうえで破砕・攪拌、焼酎廃液などに混ぜ込んで発酵を進める仕組み

だ。能力アップにより、「より効率的に作業を進められるようになった」という。

飼料化用としては現在、食品工場からの野菜くずやジャガイモの皮、シロップシュース、菓子類などを1日当たり約7ト受け入れ、各性状に応じて液体飼料と乾燥飼料に作り分けている。供給先である養豚農家数が増えて液体飼料のニーズが高まっていることから、当面は液体飼料化用を中心に、同10トの受け入れを目指す。

高橋社長は、「ボイラントは、費用を最小限に抑えて機械の処理能力を倍以上に引き上げたこと。新設した破砕機については、メーカーと相談しながら改良を重ね、異物が混入しても壊れにくいものに仕上げた。今後は産廃業者などに向け、機械自体の販売も手掛けた」と意気込む。

同社の強みは、食品リサイクルに対する豊富な知識と技術力。2007年の創業以来、食品残さ・有機汚泥の肥料化に始まり、飼料化やコンサル業務、飼料分析など、順調に事業の幅を広げている。

環境テクシス

一廃処分業許可を取得 日量1ト目標に飼料化へ

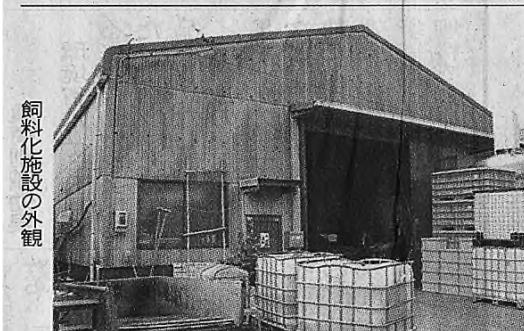
食品残さの肥飼料化事業を展開する環境テクシス(愛知県豊川市、高橋慶社長、☎0533・87・5512)は3月28日付で、愛知県豊川市の一般廃棄物処分業の許可を取得した。対象となるのは、事業所から発生する食品残さ。今後、スーパーや給食センターなどへの営業を強化し、当面1日当たりの約1トの一廃受け入れを目指す。

同社は、食品工場等から発生する有機汚泥・食品残さの肥飼料化で実績を重ねている。飼料化施設は、容器分別機・破

砕機・発酵タンクなどを備え、幅広い原料の受け入れに対応する。また、排出元に対しては、発生現場で食品残さに薬品を添加する保存処理システムを提案。原料の変質防止や害虫予防、臭気抑制に役立つほか、運搬頻度を低減してコスト削減

につなげるなど、独自のノウハウを蓄積している。

今回の許可取得では、スーパー等の調理残さやご飯類を中心に受け入れを進めたい考え。現在、事業強化を図っている液体飼料の原料として活用する方針だ。(関連記事4面)



飼料化施設の外観

砕機・発酵タンクなどを備え、幅広い原料の受け入れに対応する。また、排出元に対しては、発生現場で食品残さに薬品を添加する保存処理システムを提案。原料の変質防止や害虫予防、臭気抑制に役立つほか、運搬頻度を低減してコスト削減

につなげるなど、独自のノウハウを蓄積している。

今回の許可取得では、スーパー等の調理残さやご飯類を中心に受け入れを進めたい考え。現在、事業強化を図っている液体飼料の原料として活用する方針だ。(関連記事4面)

につなげるなど、独自のノウハウを蓄積している。

今回の許可取得では、スーパー等の調理残さやご飯類を中心に受け入れを進めたい考え。現在、事業強化を図っている液体飼料の原料として活用する方針だ。(関連記事4面)

につなげるなど、独自のノウハウを蓄積している。

今回の許可取得では、スーパー等の調理残さやご飯類を中心に受け入れを進めたい考え。現在、事業強化を図っている液体飼料の原料として活用する方針だ。(関連記事4面)